



伊那弥生ヶ丘高校同窓会報

平成 22 年 5 月 20 日発行

第 1 号



同窓会報発行によせて

同窓会長 清水 貞子

伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会会員の皆様にはご清祥のこととお喜び申し上げます。

平成 21 年度同窓会総会にて会則が改正されました。同窓会活動に一層のご理解を頂けますよう、皆様からのご提案を検討し、より活発な同窓会の姿を求めつつ、できるところから実施してまいりたいと思っております。同窓生と一口に申しまして、それぞれの時代背景が異なり、女学校時代と共学時代とでは、その経験も違うかと思いますが、希望に燃え、エネルギーを燃焼させた青春時代を過ごした仲間として、母校を想いその発展を願う気持ちに変わりはないと思えます。

平成 23 年に母校は創立百周年を迎え、10 月には式典を予定しております。百年に一度のこの機会を同窓生として盛大にお祝いし、母校への感謝の気持ちを形にして残すよう、創立百周年記念事業実行委員会を組織して準備を進めております。

この度趣意書が完成し、これに込められた思いを皆様にご賛同いただきたく、よろしく願い申し上げます。改正されました会則に入れられた活動の一つに、同窓会報の発行がございます。皆様にご協力いただき、第一号が発行できるはこびとなりましたことを嬉しく思っております。

会報は、百周年記念事業等のお知らせだけでなく、各世代の方々にご寄稿していただきました。自分が過ごした学生時代が百年という長い時間のどこに位置しているのか、青春時代を歴史の中においてみることができ、新たな思いで若き時代を振り返る楽しみを与えてくれるように感じております。これからも会報を発行し、学校の行事、母校への想いや、さまざまな様子などをお知らせし、お互いの絆を一層強め、親睦を深めていただく機会を提供できれば幸いです。

新たな百年に向けて世代を問わず、気軽に参加できる同窓会活動にしてみたいと願っております。今後ともご協力くださいますようお願いし、皆さまのますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、初刊号発行のご挨拶とさせていただきます。



後生畏るべし

～百周年に向けてのお願い～

学校長 窪田 善雄

本年度、小諸高校から転任してまいりました校長、窪田善雄と申します。微力ではありますが、多くの先輩たちが創り上げてきた弥生ヶ丘高校の素晴らしい伝統を継承し、本校発展のために力を尽くしたいと考えています。どうぞよろしく願い申し上げます。

さて本校は、来年度百周年を迎えることとなりました。この節目に当たり、伝統の名に恥じない盛大な記念事業を挙げるべく関係者一同、準備に着手いたしました。同窓会の歴史始まって以来の『同窓会報第一号』がここに発刊の運びとなりましたのも、その一環と存じます。しかしながら、直接の関係者である私どもだけでこの大事業を遂行することは到底不可能であり、同窓生の皆さまの暖かいご支援をお願いする他ありません。

『論語』の「子罕篇」に次のような有名な一節があります。「後生畏るべし。焉んぞ来者の今に如かざるを知らんや。」(自分より後から生まれてくるものは、畏敬すべきである。これから出てくる人が、どうして今の自分たち程になれないと言うことができようか。) 私どもは、「先生」などと呼ばれていますが、日頃「後生」(生徒のこと)の活躍の様子をみていると、この『論語』の一節をつくづく思い知らされることがあります。もしかしたら「後生畏るべし」という精神は、同窓会という組織にとっての普遍的な思いかもしれません。

弥生ヶ丘高校の生徒たちは、日々、真剣に学習、クラブ、生徒会等の活動に取り組んでいます。特に近年、本校が力を入れているのが進学指導であり、着々と成果を挙げてきました。しかし、残念ながら近隣の高校が整備しているような生徒自習室が本校にはありません。このような状況の中、記念事業の一つとして生徒がよりよい環境の中で自習ができる自学自習室の整備を計画しております。「後生畏るべし」の名に恥じない後輩たちの活躍を温かい目で見守っていただき、応援していただければ幸いです。何卒、ご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

末筆ながら、皆さまのさらなるご健勝を祈念申し上げます。

創立百周年記念事業の成功に

母校伊那弥生ヶ丘高等学校は、平成23年に創立百周年という大きな節目の年を迎えます。この機会にて、記念事業成功のため同窓生の意志の結集をお願いします。この記念事業推進のために、同窓会・学校・表し、輝かしい伝統を次代に繋ぐべく未来への飛躍を目指して記念事業を計画いたしました。

環境整備委員会 (委員長 西原 功)

現在の学校の状況を見て、聴いて、何が必要であるのか、またまた同窓会がどのように関わったらよいのか、さらには世界的な経済不況の中で、最小の経費で最大の効果をあげるにはどうした良いのか何度も検討を重ね、つぎの事業を決定しました。

①多目的教室の整備

県下公立高校の6割強の学校において、何らかの形で自習室が整備されていて、進路希望実現に大いに役立つ状況です。

母校においては静かな環境で学習できる場所がないために近隣の施設等を利用していますが、スペースや時間の制約等があるために十分取り組むこともできないのが現状です。そこで生徒たちが安心して学習に取り組むことのできる場を整えてあげることがより高い進路希望の実現の保障に有効です。

場所については、現在空き教室となっている2階の視聴覚室を活用します。現在室内の構造や設備について学校側の希望等を含めて具体的な検討を進めています。

また、この多目的教室は、同窓会が会議室として利用することが可能となり、多人数での会議の開催に活用することができます。

この事業が記念事業の中心となります。

②クラブ活動の助成

限られた学校予算の中で、備品が不足したり活動が制限されているクラブが多い現状です。そんな中においても、運動系、文科系の様々なクラブが多く、大会でそれぞれ優秀な成績を収めています。思い切り活動できる環境を整えることにより、より一層活躍の場を広げてもらえることができます。

備品楽器がないために近隣の学校から楽器を借用していたり、生徒が自費で購入している吹奏楽部の現状や、マイクロバスが2台しかないためにクラブの遠征や大会が重なった場合には、先生や保護者が自家用車で生徒を輸送する等の問題等もあげられており、現在、学校からの要望を集約しながら内容を検討しています。

③その他学校環境の整備

弥生ヶ丘の象徴でもある桜並木の枯損が激しく危険な状態であるため、桜の手入れと記念植樹を行い二百周年にむけての環境整備等を行うこと等について検討しています。

西原委員長談

記念事業の成功に向けて皆様のご協力をお願いいたします。

私は共学一期生です。卒業後30年を機に先日4名の恩師にご臨席いただき、総勢90名で同期会を開催しました。その席上「弥生も男子入学が多くなり、上伊那で1番人気ある高校との事、そこに良い先生と生徒がいたため」と自慢しました。(私は生徒会長でした)出席者全員で「共学一期生が、良い伝統を守り続けるため、百周年を機会により一層弥生の輪を広げ、発展させるよう率先して協力しよう!」と誓い合いました。

皆さん、百周年を単なるイベントで終わらせず、未来へ繋ぐ架け橋の土台になるよう、卒業生の誇りを結集し、記念事業を成功させようではありませんか。ご協力をお願いいたします。

記録委員会 (委員長 東條明彦)

別紙「百年のあゆみ」について参照

「写真に見る100年」と「80年のあゆみ後の20年史」、「33回名古屋動員の記録」の3部構成からなる記念誌の発行にむけて現在編集作業を進めています。母校の百年という歴史の重みや伝統を懐かしくご覧いただけるものと思います。式典の記録等も掲載しますので、発行は式典後となります。

本日注文書を同封しましたので、是非ご購入いただきますようお願いいたします。

向けて…同窓生の意志の結集を

母校が歩んできた歴史を振り返り、先輩が築きあげてきた輝かしい伝統を思い、今後の更なる発展を願う P T A が実行委員会を組織し、百年の歴史を支えてくださった地域社会、関係機関への感謝の気持ちを

募金委員会 (委員長 中村 くに子)

実りある記念事業にするため、募金目標額 5,000 万円を目指しています。主な使途については、記念事業の中心事業である多目的教室の整備やクラブ活動の助成等の環境整備費、記念誌の作成、百年の歴史の中ではじめての活動である同窓会報の発行等、記念式典・祝賀会の開催、その他事務局開設にあたっての諸費用や管理運営費等になります。

まず、同窓会員の皆様に「趣意書」と「募金要領」をお配りし、ご理解をいただきたいと思えます。各支部の組織のご協力を得て、募金委員が直接訪問する方法と、遠方については郵送により「振込取扱票」で納入いただく方法とで募金活動を進めてまいります。あわせて地元企業等を中心とした篤志者の方々へのお願いも積極的に行っていく予定です。

厳しい社会情勢の中ではありますが、百年という大きな節目を迎える母校がこれからもますます発展しますよう是非皆様のお力をいただきたいと思えます。別紙「趣意書」及び「募金要領」をご覧くださいよろしくお願いいたします。

式典委員会 (委員長 前林 美津子)

創立百周年記念式典・祝賀会

期日 平成 23 年 10 月 8 日 (土) (予定) 会場 長野県伊那文化会館 (予定)

現在内容等について検討しています。多くの同窓生の皆様にお会いできることを楽しみにしています。親しくまた懐かしくお話ができることと思えます。会場を同窓生でいっぱいにしましょう。

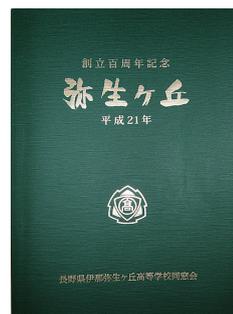
名簿委員会 (委員長 春日 喜代子)

創立百周年を記念して同窓会員名簿を作成し、昨年 8 月お申込みいただいた皆様のお手元にお届けさせていただきました。

今回の名簿発行に際しては、同窓生の規模が大きいこと、また、前回の発行より 10 年の歳月を経て、多くの会員の動向が変化していること等により、精度を上げるため専門業者に依頼しました。調査、編纂に当たっては、個人情報への慎重な取り扱いを重視し、本人の意思確認を経て掲載しました。

名簿はモスグリーンの表紙に金箔の題字という百周年にふさわしい素晴らしいものが完成しました。中には会員の動向のみでなく、創立当初から現在の男女共学までの歴史をたどる写真も掲載されています。

この名簿は、同窓会本部にとっては会の活動の根幹である会員の把握のためにも重要なものであり、また、同窓生の皆様にとっても、青春時代に思いを巡らすものとなり、また、同窓生の絆を深めるお役に立てるものとなることを願っています。多くの皆様からご購入いただきましたが、まだ在庫がありますのでご希望の方は事務局までご連絡ください。(一部 4,500 円) なお、会員の皆様の個人情報保護の取り扱いには万全を尽くしてまいります。会員の皆様のご協力をお願いいたします。



記念品委員会 (委員長 堀口 喜美子)

創立百周年記念事業実行委員会総会にて、貴重な募金を記念品に使用するのはなく、母校のため、同窓会のために使用した方がよいと決定されました。今回記念品はございませんが皆様のご理解をお願いいたします。

絆を育う 未来につなぐ

弥生は現在多くの生徒が進学し、進学指導に力を入れています。
生徒達は希望する進路に進むため、日々努力を積み重ね、学習面だけでなく数々の行事のなかで絆を培い、人間性を育て、未来につなげています。そんな高校の様子をお知らせします。

4月から新入生が入学し、学校全体が新鮮な空気に満ちているように感じます。

近く、部活動も運動系・文化系共に発足し、新体制で活動していきます。今年はインターハイが沖縄で、全国高等学校総合文化祭が宮崎県で開催されます。予算や活動場所の少ない部活動があるなど不十分な点もありますが、それぞれの目標に向かい日々活動していきます。

部活動ばかりでなく、学習面でも三年生は受験に向けて定期考査やテストの際には集中して学習に取り組んで

います。自習室のように自由に学習に使用できる教室が常に開かれていると、より学習に集中できるように感じます。

今年は文化祭の日程が早まり、5月、6月に行事が集まっています。忙しい日程ですが弥生ヶ丘高校の教育目標である「自主自立」「文武両道」を実行できるように生活していきたいです。

生徒会長 井踏大地

春

●新入生歓迎会

各部活一年生の勧誘のため、工夫を凝らしステージ発表。

●クラスマッチ

ソフトボール・卓球等学年の枠を超え対戦。校内の交流を深める。

●部活動

インターハイ等の予選を勝ち抜くため、練習に力を入れる。



夏

●弥生祭

昨年は記念すべき50回。

弥生の文化祭は熱い！日頃の成果を発揮すべく練習と準備を重ねた企画発表等は、皆に感動を伝える。

3年生のクラス企画の正門アーチ・野外ステージは開催日の朝までかかり仕上げた。

前夜祭のクラスパフォーマンスは賞を決め志気を高める。

弥生祭は交流を深め、協力し、築き、成し遂げる喜びと感動を皆に教えてくれる。

●音楽会

伊那文化会館で開催

まず曲、指揮者、伴奏者の選出に悩む。音楽会に対する気持ちの差は、練習を繰り返すうちに一生懸命さ変わっていく。1年、2年、3年とハーモニーが育まれていく。

だから弥生の音楽会は素晴らしい！！生徒も保護者も最初から最後まで息を潜め聞き入る。最優秀賞等の賞のゆくえも気になる。



秋

●競歩大会

互いに励ましの声を掛け合い、長い距離のゴールをめざす。

PTAが作ってくれた豚汁は各別においしく、疲れを癒してくれる。

●クラスマッチ

サッカー・卓球等チーム編成し練習する。応援も含めクラスが団結し楽しむ。



●百人一首クラスマッチ(1、2年)

句を分担して覚えるもよし。チームワークで勝利を狙う。

●送別会

感謝の気持ちを込め3年生を送る。

冬

生徒達は熱心な先生方の指導のもと、創造力、協調性、友情の尊さ等、心の成長を勉学と共に得、未来に踏み出していきます。

■平成21年度(22年3月)卒業生進路状況

| 進学 | 現役生 | 男 | 女 | 計 | 合格延数 |
|-------|-------|----|-----|-----|------|
| | 国公立大学 | 10 | 12 | 22 | 29 |
| 私立大学 | 64 | 79 | 143 | 340 | |
| 国公立短大 | 0 | 4 | 4 | 5 | |
| 私立短大 | 0 | 19 | 19 | 31 | |
| 医療専門 | 2 | 11 | 13 | 20 | |
| 他専門 | 5 | 18 | 23 | 24 | |
| 留学 | 1 | 0 | 1 | 1 | |

| 就職 | 現役生 | 男 | 女 | 計 |
|----|-----|---|----|---|
| | 公務員 | 0 | 0 | 0 |
| 民間 | 1 | 0 | 1 | |
| 他 | 7 | 5 | 12 | |

■主な進路先

【国公立大学】

信州、千葉、埼玉、群馬、山梨、他

【私立大学】

埼玉医、青山学院、法政、立教、他





同窓会東京支部から

前東京支部長 **新村 洋子**
(旧姓 前沢・高校 10 回)
東京都杉並区在住

東京支部では、毎年6月第3日曜日に東京支部総会を開いています。今年度は、6月13日(日)にアルカディア市ヶ谷で開きます。今年度は、母校創立百周年記念を次年度に控えた特別な総会になります。

毎年恒例の総会講演会に今年は、伊那食品工業株式会社社長塚越寛氏を迎えることが決まりました。講演会には、会員の家族、友人などにも参加を呼びかけています。故郷を思い、母校を思う盛大な総会になることと思います。

毎年総会には、本部会長、副会長、母校校長先生、恩師の先生方にもご出席いただき、盛り上げてくださいます。この場をお借りしてお礼申し上げます。また毎年本部同窓会の会員の方の参加者もあります。どうぞ今年もお出で下さい。

同窓会ですから、懐かしい同期生、先輩、後輩、恩師の先生方とのお話が中心ですが、やはり母校の在校生のことは気がかりです。校長先生が、毎年在校生の活動の様子を印刷して持ってきてくださり、紹介して下さいます。昨年は、校長先生のお話がきっかけで、器楽クラブの皆さんに活動の足しにと出席者に、一口500円のカンパをお願いしたところ、10万円余のカンパが寄せられ、校長先生を通じて贈ることができ、参加者一同で喜び合いました。

今年の総会では、参加者だけでなく会報を送っている2800名の方全員に、会報と共に在校生の活動紹介の印刷物を送ります。

百周年記念事業のひとつに、在校生自習室(同窓会でも使用可能な多目的教室)をプレゼントすることが決定したそうですね。私たち東京支部でも全面的に協力します。今から呼びかけて小さな仲間の集まりをもち、輪を広げながら募金活動に入ります。多くの皆さんのご協力をお願いいたします。



同窓会

下島 典子 (旧姓 松沢・高校 20 回)
箕輪町木下在住

昨年10月3日の同窓会総会は、私達20回生が当番でした。卒業以来42年ぶりの人も多く、手を取り合って再会を喜びました。総会后、弥生の器楽クラブの演奏を聴き、懸命な姿の爽やかさに心打たれました。最後は第二校歌を、42年前に戻ったかのような大合唱。久しぶりにこの校歌を思いきり唄うことができ、感激しました。

演奏を終えた生徒さん達に「とても良かった」と声をかけると、実際にはきはきと「ありがとうございます」と

笑顔で答えてくれました。

今時の若者は…と、つい言ってしまいがちな今時のおばちゃんの私たち。とんでもないことでした。聡明で礼儀正しくて爽やかな生徒さん達。これが弥生の校風なのだ…と感じ入りました。若い同窓生にエールを送ります。

懇親会は旧交を温めるには、時間が足りない思いがしました。60歳での同窓会。自分なりの人生を歩んできて今があり、今だからこそ認めあえる、わかりあえる年齢になったのだと思い至りました。成績ではなく、職業でもなく、一人の人間として再会できた。この時からまた新しい人間関係が作られ、今後の人生がさらにひろがっていく。嬉しい予感がありました。委員としてかかわれたことを感謝しております。

伊那弥生ヶ丘高校が、いつまでも美しい名に恥じない学舎でありますようお願いいたします。



救急救命士の仕事に燃えて

石綿 大士 (高校 53 回)
東京都葛飾区在住

私は東京の大学でスポーツ医科学を専攻し、救急救命士になるための勉強をして国家資格を取得しました。晴れて東京消防庁に入庁でき、救急隊員として勤務しています。東京都は救急の件数が多く、救急車での出場は月に百件になることもあります。出場すると傷病者の病態に合わせた適切な救急救命処置(心臓マッサージ、人口呼吸、徐細動・電気ショック、薬剤投与等)をし、迅速に病院へと搬送します。怪我、急病、交通事故等悲惨な現場にも出場し、様々なケースに対応せねばなりません。救急車で心臓停止の状態から脈拍や呼吸が戻る場合がありますが、残念ながら助けられない命もあるのが現実です。また救急隊員は消防隊の一員でもあるので、日によっては消防車に乗り火災時の消火活動も行います。

救急救命士の使命はその名の通り命を救うことです。簡単な仕事ではありませんがやりがいを感じています。より多くの命を救い人の役に立ちたいと考えています。今後の目標はレスキュー隊員の資格を取得し、ハイパーレスキューに入隊して活躍することです。

職場では良き同僚と上司に囲まれ、毎日が楽しく充実しています。今自分が生きてここにいるということを非常に幸福なことだと思うのです。

高校時代はソフトボールの部活動中心の生活を送りました。朝練習、授業、放課後も練習。周りにはいつも部活の仲間や同級生たちがいてくれ、互いに励まし合い共に頑張ることができました。友人、家族、先生等多くの人の支えがあったおかげで悔いのない生活を謳歌できたのだと思っています。今でも彼らは私の支えです。高校時代の思い出が今の私を形成する源泉です。

私は弥生の卒業生であることに誇りを持ち、弥生で学べて本当によかったと思っています。

卒業生は、弥生ヶ丘高校の皆さんを応援しています。



時を経て、心をつなぐ

野笹 玲子 (高校 25 回)
教育者・ボランティア活動家
東京都大田区在住

私は大学の初等教育学科に進学し長野県の小学校教師を経て結婚。二人の子供の出産子育ての後に教師に復職し、小学校受験に携わって 23 年。2001 年に横浜市あざみ野に、教室を独立開校して 10 年目を迎えます。

毎年 120 名程のお子様達をお預かりして、18 名の教職員と共に幼児教育に情熱を燃やす毎日ですが、教師としてまた経営者としての大きな責任を担って歩む日々のなかで「リーダーシップ」と「勤勉」であることの重要性を感じます。特別な能力も才能も持ち合わせていない私は「人から信頼される人間になること」その為には「人を支えてあげられる能力を備える努力」が必要であると考えました。結果この「リーダーシップ」と「勤勉さ」は、どちらもが弥生生時代に養われたものだと気づきました。

生徒会長やルーム長としての活動や、体操クラブのチームメイトと共に汗と涙を流してインターハイを目指した青春の日に、人を思いやり共に育ててゆくことの素晴らしさや、何事も怠けず絶えず努力を続けてゆけば、結果は後からついてくる。少なくとも後悔することは決してないことを学びました。

今自分が必要とされていることの幸せと、周りに信頼できる仲間達がたくさんいてくださる幸せを感じる時、今日の私が在るのは、あの弥生の 3 年間に「生きてゆく力」を育てていただいた教育の賜物であると実感いたします。

独立して 5 年目の 2004 年スマトラ沖大地震を機に、これまで私が頂いた優しさを少しでもお返ししたいという思いで、津波の被害にあったスリランカの子供達の為のボランティア活動を始め、衣類を持って現地に行きましたが、悲しむ子供達を前にしてこれから何ができるのかを自問自答しました。帰国後すぐに「こども寄金」を設立し、一人では何もできないけれど皆が集まれば何かができる。だから「とにかく始めよう」と声をあげました。嬉しいことに弥生の後輩の皆さん達が、3 年前から私の活動に賛同して心強い応援をしてくださっています。生徒会の取り組みとして、弥生祭でバザーや募金活動をしてくださり、毎年一基ずつスリランカの貧しい農村に井戸を建設することができました。遠く離れたスリランカの山の中の村々に「伊那弥生ヶ丘高等学校」の名前が刻まれた井戸が存在し、その井戸によってたくさんの方々が笑顔にし、生命をつないでいるのです。

昨年の募金では長い内戦で傷つき苦しんできた、スリランカ東部ポロンナルワの村に井戸を寄贈していただきました。小さな子供から老人まで、全ての村人たちがどんなに喜んだことでしょう。その喜びを若い世代の後輩達が、自分の喜びとして受け止めてくださっていることを心から嬉しく思います。

またある弥生の大先輩が、ご主人様と長年続けてこら

れたボランティア活動の一つとして「こども寄金」にもご寄付くださり、スリランカに井戸を 2 基作ることができました。

こうして長い歴史を経ても「弥生」という家族がつながり合える喜びを感じると共に、私達の「弥生」にとって、この百周年が一つの集大成であり、脈々と受け継がれてきた伝統や思い出を大切にしつつ、また新たな出発となりますことを切に願い期待してやみません。



愛組通信

高柳 秀子 (旧姓 松村・高校 45 回)
中川村在住

私達は 2 年に 1 度同級会があります。定期的に会を開催してくれる仲間がいるのは、素晴らしいことだと感謝しています。全員が集まるのは難しいので、そんな仲間のためにも「愛組通信」という紙面を通じて情報や近況を交換しています。

「愛組通信」というのは、在学中の学級だよりが始まりです。私達の学年は A～I クラスまでありました。(少子化の今では驚き!) その I 組を愛組にしたのが担任の宮脇先生で、卒業後も何回か送っていただきました。

現在は 2 年に 1 度の同級会に合わせて、宮脇先生監修のもと発行しています。前は「愛組短歌」で近況報告。家族のこと望郷の思い、いろいろありました。先生からほめていただき同級会も楽しくすごしました。

私はピアノ講師をしております。ピアノを通じて子供達と学んだり、楽しんだり。ママさんコーラスの皆と、音楽の奥深さ難しさを感じている。そんな毎日です。

人に教える、伝えるということは本当に難しいです。まだまだ勉強することはたくさんありますが、これからも悩み考えながら楽しく笑顔で過ごしていきたいと思えます。



百周年によせて

春日 崇広 (高校 55 回)
消防士・伊那市富県在住・“21 年度 伊那消防組合 消防職員意見発表会 最優秀賞受賞”

創立百周年おめでとうございます。この記念すべき事業に、協力させていただくことができ大変嬉しく思っております。

高校では野球部に在籍し、3 年生の時には主将を務めさせてもらいました。また、夏の選手権大会では創部初のベスト 8 まで進出することができました。同窓会の方々など多くの方に支援していただき、最高の高校生活をおくることができ感謝しております。

これからは、野球部が我々の成績をぜひ塗り替え甲子園出場できるように、また弥生ヶ丘高校も益々発展していきますように、同窓会の一員として、微力ではありますが協力させていただきたいです。



獅騰鷹目行似女手

(シタンヨウモク、オコナウニメテヲモツテス)

片桐 聡 (高校 35 回)

消化器外科医・東京都新宿区在住

高校を卒業してから四半世紀が過ぎました。目を閉じると高校時代の思い出は、今でも走馬灯のように私の臉に蘇ります。通学路であった“大根坂”を日々上り下りしていた頃はまだ男女共学になったばかりで、男性陣は肩身の狭い思いをしていたものでした。

どんな時でも女の子が強く、いつも友人たちと部室に逃げ込んで部活ばかりの毎日でした。

いつの間にかに私は、白髪を気にする中年になってしまいました。そして今でも女性中心の職場で働き、女子大生相手に教鞭をとっています。

今、東京女子医科大学病院で消化器外科医をしています。高校時代と同じように、多くの女性看護師、女性コメディカル、女子学生の中で仕事をする毎日です。肩身の狭さは27年経っても変わっていません。

しかしながら現在の状況が無理なく受け入れることができるのは、あの3年間の経験が私の心の中に生きているからでしょうか。

高校を卒業するまでに小学校の修学旅行も含めて2回しか東京へ行ったことのない勉強が苦手な私が、いま東京の真ん中の新宿で医師をしているとは高校時代には想像すらしたことはありませんでした。父親も私が医者になることには反対でした。

消化器外科の仕事は、“癌との闘い”であります。

その中で私は肝臓癌に対する手術治療と肝移植が専門です。仕事は体力勝負です。若かりし頃は、朝6時から仕事が始まり終わるのが夜中。家で寝られるのは1週間に1日のみで、休日は4ヶ月間なし、月給4万円という過酷な生活でした。しかしそれが当たり前の時代でした。10日ぶりにアパートに帰ったところ、電気も水道も止められておりまた病院の当直室に戻ったことを思い出します。アパートも借りず、住民票を病院に移してしまった強者同期もいました。今では当直や夜間の緊急手術を除けば、大抵は家で寝ることができるようになりましたが、朝は7時半の回診から始まり、帰宅はシンデレラという生活です。

仕事内容は手術が中心ですが、大学病院勤務という特殊性から診療のみでなく、学会発表、論文作成をはじめとした研究活動、学生や若い医局員 研修医 看護師を対象とした教育、医局と病院の運営など多岐にわたります。患者様とだけ接していればよいというわけにはいきません。また今の日本の医療は医師不足、病院閉鎖、救急患者の受け入れ拒否、医療ミス隠蔽問題など危機に面しています。その中でも若い医師の外科離れが加速してきており、多くの医局講座の中でも3K（きつい、汚い、危険）と言われている外科分野に飛び込んでくる若手はめっきり少なくなりました。看護師も同じです。医療崩壊は、外科病棟や手術室ではいっそう深刻な問題になっていま

す。テレビの外科病棟や救急医療を扱う番組のように決まっただけのいいものではありませんし、それを見て憧れて来る若手もちらほらです。

そのような中でもやっていけるのは、自分は携わった患者様が元気になり、病気を克服する場面に接した時であります。臭い台詞ではありますが、自分の体がガタつくようになった今だから言えるようになりました。

また、この仕事を通して学会や医療協力で海外に出ることが多くなりました。今までに28カ国に渡り、今年もアルゼンチン、モンゴル、フランス、ドバイに仕事で行く予定です。海外に出ることは大きな刺激になりますし、新たな発見が数多く隠れています。

私の好きな言葉に、獅騰鷹目行似女手（シタンヨウモク、オコナウニメテヲモツテス）という言葉があります。“外科医は獅子の胆（騰）を持ち鷹の目で、処女の手で手術を行うべし”といった意味であります。

若き研修医時代の過酷な経験や、高校時代に女子の中で生活していた時の感性が、手術の場でも発揮できればと思うこのごろであります。

百周年おめでとうございませう。どんな形でもいいと思っています。母校に、後輩たちのために何か貢献できることはないかと考えています。



生きがい現役

倉澤 益子 (旧姓 羽生・高校 17 回)

飯島町在住

2月の同級会の折、親の介護や自身の健康問題等が話題となり、63才の今も現役で介護現場にて働いている私が、ありのままを書くことで何かのお役に立てばと思いい、原稿執筆依頼を引き受けました。

私の勤めている施設に93才の弥生の先輩が二人入所しています。認知症も加わり話もちぐはぐですが、二人とも女学校を出たことに誇りを持って心穏やかに過ごしています。時々ご家族が会いに来ますが、先だって「ハガキを書いてくだされば」と提案しました。以前家族からのハガキを皆に見せて回って、涙を流し喜んでいた人を思い出したのです。ハガキ1枚の威力。こんなに安上がりな親孝行があるんです。内容は楽しいこと、楽しかったこと、絵だっただけいいと思います。遠く離れていてもいつも思っていてくれると、心豊かになることでしょう。会いに来た家族が帰った後、後を追って廊下を行ったり来たり落ち着かなくなる人もいます。まだ親孝行のできるチャンスのある人は幸せです。

私達介護員も以前の見てあげる介護から、見させていただく介護に変わり、自分も入所したい施設をめざして日々勉強、努力をしています。誰もが訪れる老いと人生の終焉を穏やかに迎えられよう、元気のうちに心のどこかにおいておきたいものです。

勉学中の皆さん、学問はもちろんですがそれと同時に、心やさしい豊かな人生を送っていただきたいと思ひます。



乙女花

野村陽子 (旧姓 福島・高校 23 回)
植物細密画家・山梨県北杜市在住

入学して間もない頃、教室の窓から見える桜は新入生を歓迎するように美しく咲いていました。漢文の授業中、風に舞い散る花びらに思わず見とれ、先生の話は耳に入ってきてません。突然の質問に何も答えられず恥ずかしい思いをしました。

新しい校庭を造るため造成すると、畑の中から土器のカケラが出土して、にわか人気の高まった考古学クラブへ興味しんしんで入部しました。土器のカケラは部屋の隅に追いやられ「今日は苺摘みに出かけましょう」と先輩に誘われ、学校を抜け出して苺畑へ出かけました。太陽の光で暖まった実の甘酸っぱい味は今でも忘れられません。

美術の授業で描く題材を忘れて、中庭にあった一枝を拝借しました。それは実はつきませんでした。信州では見かけることの少ない枇杷の木でした。こんな風に私の女子高生時代の思い出は、草花にまつわることが多いように思います。

卒業して 40 年。久しぶりに訪れた母校は、新しい校舎に建て替えられていたものの、思い出の中に生き続けている桜やツツジ、銀杏並木は健在でした。

あの頃は何気なく見ていたものが頭の隅っこにはちゃんと記憶されていて、こんな些細な出来事が今に繋がっているように感じられて仕方ありません。
(野村陽子さんの作品は、かんでんぱばミュージアム「野村陽子植物細密画館」で鑑賞できます。)



村の子

鈴木 岬 (旧姓 竹内・高校 12 回)
俳画塾主宰・伊那市社会教育委員
元高遠町図書館長・伊那市高遠町在住

村からほとんど出たことのない女の子が、毎日バスに乗って伊那の高校へ通うということは、嬉しいというより大変なことでした。病床の母が、私の進学を父にどうしても頼んでくれたからでした。母もまたその母の病気のために、家の犠牲となって「女学校」への進学を諦めた辛い思い出があったからです。

昭和 32 年、今から言えば戦後の色濃く、皆貧しさに耐えていた時代でした。朝カマドでご飯を炊き、芋か大根の味噌汁を作り、山仕事に行く父の弁当を作り、寝ている母の手の届く位置におむすびを置き、兄や弟にも食事の世話、着るものの心配、火の始末、それから走って 15 分、高遠駅からバスに乗る。入舟で降り、学校までまた走って 15 分程。気がつけば首のあたりや腕の裏側などに、カマドの炭がついたままということもしばしばでした。

学校では町場から通ってくる美しい生徒達には気後れ

して話もできず、先生に苗字で呼ばれることも、広い校舎も、制服も、村のお店くらい何でもある購買部等々全て、おどおど、どぎまぎの村の子でした。

そんな中で唯一楽しく適応できたことは、絵を描くことでした。選択もクラブも美術を選び、早川・安川・板山先生、三人の画家との出会いは、その後の人生において貴重な糧となりました。

あれから 50 年、職業もいくつも変わり苦労しましたが、人生の山河を超えた今、ささやかながら俳画塾を営み、ようやく平原を歩いている気分です。

たった三年間ですが高校生としての“時”は、果実の芯のように人生の核となっております。



南の島で

加藤 智 (高校 36 回)
沖縄県石垣島在住

弥生創立 70 周年記念式典で私は生徒代表として祝辞を述べました。そして 100 周年に原稿が書けることを感謝します。

70 周年のその時三年生であった私には想像もつかなかったろう。青い海への憧れだけを理由に石垣島に移住して 10 年以上たつ。仕事は、車エビの養殖に携わっている。石垣島の暮らしには多くの感動がある。浜辺から海に入り、そのままちょっと潜れば珊瑚礁や魚たちの美しさに目を奪われ、サザエがあれば取って食べる。水面を滑るように走るヨットで爽快に風と遊ぶ。

ベランダに出て外を眺める。紺碧と紺青と澄み切る青の海。水平線で分かれる蒼海と蒼空。そして流れる雲。夏の夕暮れ、雲が邪魔をしなれば、夕日はそのままジュワーと海に溶けていく。空は赤から赤紫、紫から青紫、紫紺、濃紺へとゆっくり変わる。西に金星を見つけるとポツリポツリと星が生まれ出し、やがて満天を埋め尽くす。自然の美と壮さに魅了される。

年に一度帰省する。雄大に聳え連なる山々や清爽な空気、鮮麗な紅葉などに強く心を揺すられる。在郷の頃はそうでもなかったのに。生まれ育った日常的な風景に鈍る心が、遠く故郷を離れるうちにやっと感じた高揚。もっとずっとずっと感動できたはずだろう。

高校がいろんな事に興味を持って感動できる環境であれば面白いと思う。多感な頃に五感を磨ける。

さて高校生の頃の私が、南の島に興味を抱いていたら今頃はもっと南、赤道あたりの空を見上げていたかもなんて考えつつ百年に思いを巡らす。時が流れ、世代も変わり、胸がいっぱいになる思いが百年分。偉大な歴史。そして、これからもずっと、人々の心を揺すり続ける。自然の美しさのように。

わが母校の次の百年もすばらしき百年であることを願い、大きな期待を胸にする。はるか南の島で海と空と夕日をながめながら。



百周年記念事業に思う

窪田 正利 (高校 33 回)
高校教諭・伊那市西町在住

私の高校生時代、弥生に自習室はありませんでした。3年の高校総体が終わり、本格的な受験生になっても、学校内に「受験勉強」という雰囲気は希薄で、放課後に上伊那図書館に通うか、休日の昼はひたすら寝て、真夜中に机に向かうという生活だった記憶があります。

昨年まで母校に教員として9年間お世話になりましたが、今の高校生が、自宅や自室では勉強できないという何とも情けない現実と、自習室とは名ばかりの普通教室で、30年前の自分と変わらぬ姿を見ながら、せめて他校と同じ自習環境を整えて、夢をかなえさせてあげたいと思うばかりでした。

この度、百周年記念事業として自習室に活用できる「多目的教室の整備」が、ようやく母校にも計画されますことに、実行委員の一員としてだけでなく、進路指導担当の立場からも安堵しています。

今後は、活動し始めた弥生ヶ丘同窓会が、世代を超えて卒業生が集えるコミュニティセンターに、徐々に整備されることを願っています。

また将来的には文化、教育、情報の発信基地、豊富な人材バンクとして地域に貢献できるような事業を期待しています。



そのとき、80年代末期

宮原 隆史 (高校 42 回)
辰野町在住

20年前バブル景気に浮かれていた昭和から、平成に時代が移り変わっていった頃、弥生に3年間通っていたことも、今は昔のこのように思います…国鉄がJRへ民営化。ソ連が崩壊。いろいろと変化のあった時代でした。生活面では、人情味・思いやりのある弥生の校風で、今でも会えば損得抜きのお話を交わせる友達や先輩・後輩とのナイスな出会いに恵まれたように思います。

後年教育実習でお世話になった際にも感じましたが、(在学当時)殆どのクラスの男女比が1:2と女性が多かったためか、非常に品のよい校風だったように記憶しております。そんな思い出も手伝い、数年前勤務先のOB先輩と職場内での同窓会をつくらうじゃないかという話になりました。

ところが、日々の仕事に追われたりして実現しておりません。やはり何でも事業を立ち上げ、運営することはなかなか大変なことと思いました。

このたびの百周年記念事業が、これからを担う後輩や、伝統を築いてこられた同窓生の皆様の、有形無形な明日への夢の梯となることを願ってやみません。

母校創立百周年に寄せて

北原 まゆみ (旧姓 久保田・高校 17 回)
伊那市長谷在住

弥生ヶ丘高校が創立百周年を迎えられることは、卒業生の一人として本当に喜ばしく、また誇りにできることと嬉しく思っております。記念事業につきましても校長先生をはじめ、同窓会役員の皆様方が、並々ならぬご苦労と熱意を持って、事に当たられていらっしゃる様子が伺え、このことも母校の次の百年を支える素晴らしい礎になるのではと心強く感じて、ご努力に頭の下がる思いがしております。

何年か前に、年若い友人が「葉っぱのフレディ」という絵本を貸してくれました。“大きな木に春に芽を出した若葉が成長し、やがて美しく紅葉して木の根元におり静かに眠りにつく。葉っぱは土や水と混ざって木を育てる力になり、大自然の中で命は終わることなく変化し続ける。”といった内容だったと思います。私達も弥生の木に生まれて育てられ、やがて土に還っていきますが、散りゆく葉っぱの一葉として母校に恩返しできたら嬉しく思います。

我が家では、親子二代に亘り弥生にお世話になりましたが、娘が通学する頃はバスの本数も少なく、待ち時間をもてあまし度々車で迎えに行きました。そのような経験から、落ち着いて自習ができる場所があれば、在校生の放課後の拠り所になるのではと感じています。

記念事業の為の募金活動につきましても、同窓生の皆様のお力添えをいただきながら精一杯進めてまいりたいと存じます。



「洗濯王子」と呼ばれて

中村 祐一 (高校 54 回)
伊那市荒井在住

高校生活を思い返してみると野球部だった僕は、高校野球の思い出しか蘇ってきませんでした(笑) 皆さんはどんな記憶が思い出されるでしょうか？

卒業してもうすぐ10年になろうとしている現在、僕は実家のクリーニング店を継ぎ、一般の方に洗濯のアドバイスをすることで、多くのメディアに出させて頂き、みのもんたさん、高橋秀樹さん、更には明石屋さんさんなど多くのタレントさんと共演するなどして、「洗濯王子」と呼ばれるようになってしまいました。

皆さんは、高校卒業後どんな道を歩んでいらっしゃいますか？

百年という歴史を歩んできた弥生の沢山の同窓生は、現在各方面で活躍されていることと思います。そんな多くの同窓生の皆さんと、後輩のため弥生の今後の発展のために、今回の創立百周年に際して協力が出来たらと思っています。



百周年によせて (90歳間近にて思うこと)

北原 貴子 (高女 24回)
伊那市錦町在住

私の20才代は戦争、終戦の混乱期で、遅遅に意を決し服作りを始めました。趣味も持とうとクラシック音楽、テニス、山登り、スキー。水泳は還暦の記念にと八年間続けましたが、年令と共に無理となって止め。俳句は続けています。

ゴルフは伊那で始まるのが待てなくて、本と首っぴきで素振りをするうち、ようやく伊那もゴルフ時代となって賑やかとなりました。

次々と逝く友に悲しみ深く落ち込んでいた折、五行歌を俳友から勧められ、東京のお仲間ができたことが喜びとなりました。

希有の思い出は、洋裁の友が徳川義親様の秘書だった関係で、殿様のお屋敷へたびたびおじゃましたことです。六十才で仕事はできないと思っていたのに、今もできることに感謝して、日々新たな感覚に挑戦する気構えで、ゴルフが無事ラウンドできることを願って練習しております。

北国の Wonderful Life

福島千穂美 (旧姓 酒井・高校 33回)
北海道釧路市在住

卒業後東京へ出た私は就職後も東京で暮らしていました。結婚後縁あって、北海道釧路で暮らし始めることとなりました。釧路は飛行場から市内まで牧場は有るけれど農作地(田んぼや畑)の無い北風の吹く寒い土地でした。

北海道に来てたくさんのカルチャーショックを体験しましたが、鮮魚売り場も山国育ちの私にとっては驚異の場所です。

漁港と炭鉱の町釧路、そこに並んでいる魚たちは、銀鱗輝くとは程遠い北国の魚たちです。

鮮度が良いのでパック詰めせず、カジカ、ホッケ、鱈、カレイ、水揚げされたままの鮭。体長50cmのサメが目目をむき、鋭い歯をむき出して並んでいたこともありました。魚たちの料理方法で馴染みの無いものは、味噌汁に魚が入っていることでした。カジカの味噌汁、鱈の三平汁など、アラも入っている味噌汁は考えられません。まして漬物に魚?塩漬けた鮭等が入った「飯寿司」は大変手がかかるので今ではスーパーで売られています。「はさみ漬け」「切り漬け」などは大根キャベツと一緒に鮭や鱈が漬物に入っています。

釧路に暮らして10数年、すっかり北国の暮らしにも食卓にも慣れ親しみましたが、今日も新しい発見と出会い(キタキツネ、エゾシカ 遭遇率高し)を求め出かけるのでした。

同窓会の思い出

倉科照子 (旧姓 林・高校 14回)
伊那市西町在住

母校同窓会は還暦を迎えた学年が同窓会総会、懇親会の幹事となっています。

2003年度は私達14回生が担当で、35名の係りを選出し、準備を始めました。講演者には同期生の中からと、千葉在住で語り部として活躍されている久保田しげ子さんをお願いし、懇親会の出し物を踊りの師である飯島千加江さん宅で猛練習?に励み、後のお茶の時間を楽しみ、迎えた総会前夜の高遠さくらホテルでの同期会は、卒業以来初めて顔を合わす友もいて、田中三郎・淵井光久先生を真ん中に、138名の出席者が写真に収まりました。

第二校歌となった“少女草”をなつかしく歌い、現校歌をしっかりと練習し、翌日の同窓会を大成功で終えることができ、これを機にクラス会を続けたり、係りをした仲間と毎年思い出会を開いて親交を深めております。

卒業以来それぞれの生活に追われ慌ただしく過ごしてきて、漸く少しゆとりのできてきた還暦の年に、このような集いの時を持つこと大変良いことだと感じ、ぜひ当番の折には大勢の方が出席され、旧交を温めてくださるよう望んでおります。



百周年によせて

倉田香恵 (旧姓 中村・高校 39回)
南箕輪村在住

現在、私は自宅でピアノ教室を開き、約40名の生徒たちと音楽を学んでいます。

昨年、伊那文化会館での弥生の合唱コンクールを聴く機会がありました。

若い歌声に感動すると同時に、3年連続で賞を受賞した自分たちの合唱コンクールのことを懐かしく思い出しました。

合唱コンクールは、音楽を通じてクラスがひとつになれるすばらしい行事だと思います。音楽に携わる者として、是非これからも続けていって欲しいと願っています。また弥生生が希望の進路に向かって、勉学に励んでいる様子や運動系・文化系クラブの全国レベルでの活躍も耳にします。

大変嬉しいことだと思います。

百周年記念事業により、後輩たちが、勉強・クラブ活動・生徒会活動に心おきなく取り組める環境が整うことを、同窓生の一人として心から希望します。



坂本龍馬は情報も携帯もない時代に日本を変えました

伊藤 優 (高校 32 回)
伊那市高遠町在住

皆さんこんにちは共学 1 期生 48 歳のおやじです。昔ドラえもののポケットには携帯電話が入っていたのに、今私はそれを持っています。もうすぐ「どこでもドア」が売り出されるかもしれません。「出来たらいいな」という夢は必ず実現します。何もない時代に龍馬が日本を変えることができた要因は、その人間力です。そしてとほうもなく大きな夢です。

個性尊重の現在、方向を示す夢が必要です。

先日卒業 30 年を記念して同年会を開催しました。皆、年はとりましたが瞳は 30 年前のままでした。キラキラした瞳に戻れる瞬間は念いを共にした仲間の存在が必要です。弥生という念いは永遠です。

「日本を今一度洗濯致し申し候」

同窓会員の皆様へ

同窓会ってなんとなく自分には関係ないって思っていますか？多分そうでしょう。だって私もずっとそうでしたから…

でも今回百周年記念の役員になり、久しぶりに高校の校舎に入ったとたんよみがえりました。私たちは、青春時代の 3 年間を弥生で学び泣き笑い過ごしました。

この高校で得た経験は、社会に出て生かされています。卒業生としてその恩を返す場が同窓会であると考えます。卒業後の経験を在校生に伝えていく窓口がそこにあります。

百周年記念で私たちは「同窓生が共に笑顔になる」を目標にいろいろな企画を考えました。

笑顔造りに共感していただいた方は、ぜひ募金という形で参加していただけたらと思います。

百周年記念式典でお会いしましょう。



同窓のよしみ…

広瀬 夏葉子 (旧姓 宮下・高校 31 回)
伊那市西春近在住

私は 女子高最後の卒業生のひとり…100 年の歴史を考えると、なんだか感慨深い。初めての男子の後輩を迎えた春。全校生徒 1000 人中わずか 74 人。第 1 期生の男子はどんな気持ちだっただろうか？

当時は移動教室が多く、都会のラッシュアワーのようにゾロゾロ～と廊下を歩いた。数少ない男子は先輩の目を惹いたものだった。

あれから 33 年…。今では男女の人数も半々となり大変活気づいている。

昨年娘が後輩として卒業し、今は大学生活を満喫している。「高校はよかったなあ～」としみじみと言う。男女仲良い最高のクラスメートに頑張りがあった部活仲間に

出会い楽しかったようだ。

最近の弥生は、いなっせ (伊那市生涯学習センター) の学習室を利用し勉強する。娘も受験体制に入ってから毎日通っていた。座席が充分でないらしく休日の朝は、電車の到着時間と争うようにいなっせまで車で送ったものだった。一度用があり学習室を覗いてみた。それはシーンとした空気で驚いた。いなっせのおかげに友達と励まし合い頑張れたように思える。いなっせは 8 時まで勉強ができる。学校の教室は時間に制約がある。もう少し時間が自由になる学習スペースが学校にあれば、生徒達もより勉強に集中できるのだろう。

先日機会があり同窓会の会合に参加した。大先輩方が精力的にご活躍の中、男子 1 期生、2 期生は先輩方に頼りにされ存在感を示していた。頼もしかった。

時は流れ多くの卒業生がいる。地域で、職場で、同窓と聞くとなんだか親近感が沸く。頑張っている先輩に励まされ、可愛い後輩の笑顔に癒される。

乙女花の校歌、娘と斉唱できる三拍子の校歌と共に母校に気持ちを馳せ、後輩たちの輝きを応援したい。



今を生きる

伊藤 真一 (高校 45 回)
陶芸家・「木賊」主宰・伊那市坂下在住

高校時代私は、数学や科学を将来どこで必要とするのか？そんな疑問を言い訳に勉強しない毎日でした。

今陶芸を生業としています。手先は器用な方でしたし、何かを深く掘り下げて独自の世界を作り上げていくことは、かなり性にあっていました。ふと気がつくとは実は陶芸という名の全てが科学によって説明できる世界に身を置いていたのです。ロクロは力学によるものづくり、窯焚きは酸化還元熱量計算、釉薬は化学反応による発色。実際には、いちいちそんなこと考えませんが、理屈上必要な世界です。

陶芸の世界は甘いものではありません。でも自分で志した道なので好い仕事だと思っています。だめな時はその過程の自分の責任だし、良い結果はそれまでの積み重ねがなければ生まれません。偶然の良い作品でもいいんです。その偶然に気が付き次に繋がればそれは実力です。

また試行錯誤していくのは、何も陶芸だけではありません。上司にお叱りをいただき「なんだよ」と思うのか「なるほど」と思うのかで人生は瞬間に方向を変えます。誰しもが人生を楽しむためのコツではないでしょうか？無理と言い切らず、できない上でチョットやってみる。これは私自身に向けた話です。

そして今陶芸という木を倒し、土を掘り、窯を炊き CO² を出し、環境破壊をしている私が、今後取り組んでいくべきことは、昨年買った荒廃した山を中心に、森林の再生をしていくことです。この取り組みが実を結ぶのは、100 年も 200 年も後かもしれません。でも何もしないより前に進みます。私はチョットやってみようと思います。



支部活動のお知らせ

◆東京支部

年会費千円 会報を年1回発行 毎年総会を開催し講演会と懇親会も同時に実施。

◆上伊那各支部

各支部では総会、役員引き継ぎ会、バス旅行、講演会、合唱、体操等を実施しているところがあります。今後の会報で、各支部の活動をお知らせします。

今回辰野地域は各支部で、6月に総会を開催。百周年記念事業と募金の説明会を下記のとおり実施します。皆様の出席をお願いいたします。

| 支部 | 日時 | 場所 | 連絡先 | 地域 |
|----|-----------------|-----------------|-------------------------|---------------------|
| 北部 | 6月6日(日) 13:30～ | 徳水館(今村) | 垣内實子 ☎ 0266-41-3361 | 小横川・宮所・今村・上島・唐木沢・川島 |
| 宮木 | 6月6日(日) 13:30～ | 宮木公民館 | 宮原正子 ☎ 0266-43-1822 | 宮木 |
| 南部 | 6月6日(日) 13:30～ | 北大出ふれあいセンター | 村上美樹子 ☎ 0266-41-2862 | 羽場・北大出・向袋・新町 |
| 竜東 | 6月6日(日) 13:30～ | 赤羽区民センター | 根橋久子 ☎ 0266-41-2954 | 平出・赤羽・樋口・沢底 |
| 辰野 | 6月12日(土) 19:30～ | 上辰野中央コミュニティセンター | 丸山永子 ☎ 0266-41-4677 | 上辰野・下辰野 |
| 小野 | 未定。後日連絡 | 未定。後日連絡 | 中村登志子 ☎ 0266-46-3745 | 小野 |

平成22年度同窓会総会のご案内

今年度の同窓会総会を開催いたします。多くの会員の方のご出席をお願いいたします。

(総会は無料・懇親会は5,000円)

期日：平成22年10月9日(土) 午前9:30受付開始

場所：プリエキャスレード 伊那市西町

同窓会館のご案内

同窓会館は次のとおり開館しております。同窓生の絆を深める場としてぜひご利用ください。

所在地：〒396-0026 伊那市西町5703

TEL/FAX 0265-76-0615

E-mail: yayoidoso@haert.ocn.ne.jp

HP: <http://yayoi100.iinaa.net/>

(「伊那弥生ヶ丘高校同窓会」で検索できます)

開館時間：月～金曜日 午前中

編集後記

同窓会報第1号をお届けいたします。

多くの皆様のご協力により発行できました。お礼を申し上げます。

同窓生の寄稿文が最も興味深く読んでいただけののではないかと考え、多くの方々をお願いいたしました。お忙しいなか快く執筆していただいた皆様、本当にありがとうございました。

紙面の都合上全文掲載できませんでしたが、同窓会ホームページにて全文を読むことができます。ぜひそちらもご覧ください。またホームページ上には、同窓生の声も掲載しております。(掲載希望の方はいつでもご連絡ください。)

母校百周年の記念すべき時に想いを寄せていただき、募金にもご協力をお願いいたします。そして23年10月予定の記念式典にぜひご参加ください。

ホームページの作成と管理は、永井治彦(34回)、他広報委員の努力で完成できました。ありがとうございました。(広報委員長 馬場令子・17回)

伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会報 第1号 平成22年5月20日発行

発行人：同窓会長 清水貞子 発行：伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会 〒396-0026 長野県伊那市西町5703
TEL/FAX.0265-76-0615

題字：花岡多賀(旧姓：北林・高女36回) 伊那市西春近在住 印刷：有限会社マスマタ印刷